

28名の著名人と聖書

聖書の扉を開く 第2巻



古賀敬太 [著]



28名の著名人と聖書

聖書の扉を開く 第2巻



古賀敬太^[著]

伝道出版社 ^[発売]

はじめに

これまで多くの著名人たちが、聖書の影響を受けてきました。この書物は、できるだけ多くの人に、その聖書を知ってもらうために執筆しました。すでに二〇二一年に『28名の著名人と聖書』（第一巻）を刊行しましたが、今回はその続編となります。

構成は、第一部「著名人シリーズ」と第二部「主題別シリーズ」からなっています。また第一部は、「日本」と「西洋」に分かれています。

第一部の「日本」では、人物の生涯や著作を中心に、彼らの人生における聖書との出会いにスポットを当てています。扱う著名人のすべては、必ずしもクリスチャンではありませんが、彼らは人生の根本問題について悩み、何らかの形で聖書にふれた人々です。

第一部の「西洋」では、西洋の作家や作曲家などの代表作を時代順に紹介します。それらの作品が、私たち一人ひとりが抱えている問題——人の生きる意味、死ですべては終わりか、人はどこから来て、どこに行くのか、神は存在するのか、真実の愛は存在するのか、むなしさからどうしたら解放されるのかなど——について語っているメッセージに耳を傾け、同時にこうした諸問題に

対する聖書の回答を紹介していきます。

第二部の「主題別シリーズ」は、聖書、神、人間、キリストなど私たちが聖書を読むうえで大事なポイントについて紹介しています。興味を持たれたら、直接聖書を読んで、真理を見いだしたいと願っています。

本書は、全部で三八の項目がありますが、いわゆる起承転結で構成されておらず、それぞれの人物、作品、テーマが独立していますので、必ずしも最初から順番に読む必要はありません。興味を持った人物や作品、ないし主題から読んでください。

はじめに

凡例

- 一 引用に際して、旧仮名遣いは新仮名遣いに、旧漢字は新漢字に改めた。
- 二 引用文に対する著者の補足は「」で示した。
- 三 年代は、原則として、漢数字を充てている。
- 四 参考文献は、それぞれの項目の末尾に示した。
- 五 聖書からの引用は原則として、『聖書——新改訳2017』（新日本聖書刊行会）を使用した。『聖書——新改訳第三版』（新改訳聖書刊行会）を使用した箇所もある。また『新共同訳聖書』（日本聖書協会）を参照した。ただし作品からの聖書の引用は、一部修正したところもあるが、基本的に作品のテキストを尊重した。
- 六 読みにくい漢字には、ルビを振った。
- 七 引用文にある傍線は、強調するために引用者がつけたもの、また引用文中の……は中略を示すものである。

目 次

第一部

著名人シリーズ「日本」(13名)

1	ロレンソ了斎(一五二六―一五九二)と聖書……………	17
	——琵琶法師から福音の伝道者へ……………	
2	勝海舟(一八二三―一八九九)と聖書……………	24
	——勝海舟はキリスト信仰を持ったのか……………	
3	森鷗外(一八六二―一九二二)と聖書……………	30
	——かのようにの生き方……………	
4	矢嶋楫子(一八三三―一九二五)と聖書……………	39
	——聖書は人生の舵……………	

目次

5	石井十次（一八六五—一九一四）と聖書……………	47
	——孤児のために生きた信仰の生涯……………	
6	森永太一郎（一八六五—一九三七）と聖書……………	53
	——我、罪人のかしらなり……………	
7	村岡花子（一八九三—一九六八）と聖書……………	59
	——花子を絶望から救った聖書のことば……………	
8	矢内原忠雄（一八九三—一九六二）と聖書……………	65
	——危機の時代の預言者……………	
9	宮沢賢治（一八九六—一九三三）と聖書……………	73
	——『銀河鉄道の夜』と聖書……………	
10	ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（一八八〇—一九六四）と聖書……………	85
	——日本を愛した独立伝道者……………	

11	淵田美津雄（一九〇二—一九七六）と聖書……………	93
----	--------------------------	----

——真珠湾攻撃の空軍指揮官からキリスト伝道者に

12	三浦綾子（一九二二—一九九九）と聖書……………	99
----	-------------------------	----

——石ころの叫びとうた

13	星野富弘（一九四六—二〇二四）と聖書……………	109
----	-------------------------	-----

——いのちより大切なもの

著名人シリーズ「西洋」（15名）

1	アウグスティヌス（三五四—四三〇）と聖書……………	116
---	---------------------------	-----

——『告白』—涙の子が減じるはずはない

2	マルティン・ルター（一四八三—一五四六）と聖書……………	122
	——我、ここに立つ	
3	ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（一六八五—一七五〇）と聖書……………	127
	——『マタイ受難曲』	
4	ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル（一六八五—一七五九）と聖書……………	133
	——『メサイア』	
5	フランツ・ヨーゼフ・ハイドン（一七三二—一八〇九）と聖書……………	139
	——『十字架上のキリストの最後の七つの言葉』	
6	ヴィクトル・ユゴー（一八〇二—一八八五）と聖書……………	146
	——「レ・ミゼラブル（惨めな人々）」とは誰のことか？	
7	ハンス・クリスチャン・アンデルセン（一八〇五—一八七五）と聖書……………	154
	——キリストを愛した童話作家	

8	エイブラハム・リンカーン（一八〇九—一八六五）と聖書……………	163
	——聖書と共に生きた大統領	
9	ハリエット・ビーチャー・ストウ（一八一—一八九六）と聖書……………	170
	——『アンクル・トムの小屋』	
10	シャーロット・ブロンテ（一八一六—一八五五）と聖書……………	176
	——信仰の光に照らして見る『ジェイン・エア』	
11	フョードル・ドストエフスキー（一八二—一八八一）と聖書……………	183
	——『悪霊』をどのように読むか	
12	ヨハンナ・シュピリ（一八二七—一九〇二）と聖書……………	190
	——『アルプスの少女ハイジ』——神との和解	
13	レフ・トルストイ（一八二八—一九一〇）と聖書……………	196
	——死の恐れとの戦い	

第二部

主題別シリーズ(10)

14	モーリス・メーテルリンク(一八六二—一九四九)と聖書	205
	——『青い鳥』——真の幸福を求めて	
15	C・S・ルイス(一八九八—一九六三)と聖書	211
	——『ライオンと魔女』のアスラン	
1	どのように聖書を読んだらいいのか?	220
2	科学と聖書は矛盾するのか?	229

3	アガペーとエロース・・・・・・・・・・・・・・・・	238
4	人間とは何か？・・・・・・・・・・・・・・・・	246
5	神への叫び・・・・・・・・・・・・・・・・	253
6	イエス・キリストは、なぜ神の御子なのか？・・・・・・・・	259
7	たましいの名医イエス・キリスト・・・・・・・・	267
8	絶望から希望へ（一）―クワイ河収容所の奇跡・・・・・	273
9	絶望から希望へ（二）―強制収容所における奇跡・・・・・	280
10	キリストを信じた死刑囚・・・・・・・・・・・・・・・・	286

第一部

著名人シリーズ
「日本」

1 ロレンソ了齋(一五二六—一五九二)と聖書

——琵琶法師から福音の伝道者へ



【ロレンソ了齋】

(南蛮屏風：神戸市立博物館)

ザビエルの来日

一五四九年は、日本で最初にキリスト教が伝来した記念すべき年です。フランシスコ・ザビエル(一五〇六—一五五二)が、ヤジロウ、トルレス神父、フェルナンドス修道士と一緒に鹿児島に着いたのは、その年の八月一日でした。特にその中のヤジロウは、薩摩出身の日本人で、若いときに殺人の罪を犯し、ポルトガル船に乗ってマラッカに逃れていましたが、ザビエルと出会って、自分の罪を告白し、日本人で最初にキリシタンとなった人物です。

ザビエルとロレンソとの出会い

ザビエルは、鹿児島から、平戸を経由して、山口で宣教をします。彼は、世界の創造主がおられ、人間はこの方によって造られ、不滅のたましいが与えられていること、イエス・キリストを救い主として信じ受け入れる者は天国に行くことができる、と説きました。

ザビエルが山口においてこの福音ふくいん（良い知らせ、ギリシャ語でエウアンゲリオン）について話していたとき、近づいて熱心に話を聞いていたのが、九州の平戸出身で、一人の盲目の琵琶法師でした。のちにロレンソ了斎（本名不詳。ロレンソとは、ザビエルが付けた洗礼名）と呼ばれることになるその盲人は、ザビエルの話に真剣に耳を傾け、やがて信仰を持つようになります。

彼は、ザビエルとの出会いを通して、神の福音を生涯かけて語る人物となります。それまでは琵琶法師として平家物語を語っていましたが、今度は神とイエス・キリストを宣べ伝えるようになったのです。

『日本史』を記したイエズス会の宣教師ルイス・フロイス（一五三二—一五九七）は、ロレンソの宣教について以下のように述べています。

ロレンソは、外見上はなはだ醜い容貌で、片眼は盲目で、他方もほとんど見えなかった。しかも貧しく穢きたない装いで、杖を手にして、それに導かれて道をたどった。しかしデウス（神）は、彼が外見的に欠け、学問も満足に受けないで、読み書きもできぬ有様であったのを、幾多の恩寵おんちょうと天分を与えることによって補い給うた。すなわち、彼は人並み優れた知識と才能と、

恵まれた記憶力の持ち主で、大いなる靈感と熱意をもって説教した。『日本史1』

以下、ロレンソの活動を、フロイスの『日本史』に依拠して紹介します。

比叡山での論争

ロレンソは比叡山に入り込み、その高僧たちに対して福音を宣べ伝えました。その中で信仰に入った高僧の一人は、自分の回心について次のように語っています。

私は一六歳で信仰の道に入り、四〇年以上の間、片手で食事の支度をし、もう一方では、現世の後で人は無に帰するという禪宗の教えを書いてきた。ところで御身は私に、靈魂は不滅で、世界の創造主、人類の救い主がおられると確言なさる。私が御身から伺うことは私にとつていとも新奇であるが、私は今まで執筆してきた書き物を焼いてしまおうと固く決心した。

ロレンソは比叡山で伝道し、さらに京都や堺に行き、そこでも福音を伝えました。

ゆうき だんまて
きよはらえだか
たかやまひだのかみ
結城忠正、清原枝賢、高山飛騨守の入信

また彼は奈良で、学問に秀でた山城の守の結城忠正と、彼の親友で和漢の書に秀でていた公卿の

清原枝賢と論争して勝利し、二人はキリストを信仰するに至ります。

清原枝賢には、「いと」という娘がいました。彼女も信仰を持ち、のちに清原マリアとして知られるキリシタンになります。彼女は細川家に仕え、細川ガラシャを信仰に導く重要な役割を果たすことになりました。

なお二人と親しかった高山飛騨守（高山右近の父）も、奈良でロレンソから福音を聞き、激しい論争の後、信仰に入ります。高山飛騨守はその後、ロレンソを居城の沢城に招き、家族や臣下にイエス・キリストの話を聞かせていますが、このとき息子の右近も信じ、洗礼を受けます。

このように高名で尊敬されていた結城忠正、清原枝賢、高山飛騨守が信者になったことは大きな反響を引き起こし、身分の高い武士や高位・高官が次々に信仰に入ります。

織田信長との関係

ロレンソは、織田信長と信頼関係を築き、たびたび彼のもとを訪問しています。一五六八年五月に、ロレンソはフロイスと共に信長を訪問し、信長や重臣の前で、当時信長に重用されていた日蓮宗の僧侶である朝山日乗と論争を行い、日乗を打ち負かします。

ロレンソは、創造主である神の存在と人格について語り、この神を信じ、従うことが究極の幸福であると説きます。しかし日乗は、目に見えないものは存在しないという唯物論的立場に立っていたため、フロイスがたましいの不滅を語ったときに逆上し、「しからば汝の弟子ロレンソをこの刀